【IIP 海外研修プログラムの趣旨と仕組み】2014年6月

１．プログラムの趣旨

IIP の海外研修プログラムは、自己の語学力の水準向上や実務・技能の経験値拡大を欲するとともに外国での暮らしを味わってみたいという皆様に、海外での実地研修活動を通じて、地域密着型の生活体験をしてもらえるように設計されたものです。

そのプログラムは、学校研修用の「スクール・インターン」系プログラムと実務・技能研修用の「ワーク＆カルチャー・インターン」系プログラムに大別されます。

概して、「スクール・インターン」系プログラムにおける実地研修では、外国の小学校・中学校・高校で、そこの教員たちと連携しながら、生徒たちに英語 ― あるいは現地語 ― で日本の文化や実情などを紹介するという活動がその基礎を構成します。

「ワーク＆カルチャー・インターン」系プログラムでは、参加者の個別の目的に即した実地研修の場所（以下では、「スクール・インターン」系プログラムにおける学校と併せて、「研修先」と総称します）で、実務スキルの研鑽あるいは伝統技術の会得に努めることが活動の根幹になります。

このような状況の中で、参加者は、研修期間中の実地研修の内容を充実させるために、また、研修修了後の人生・仕事にその成果を反映させるためにも、研修先・滞在先では積極的に周囲の人々に接し、その地域コミュニティにも進んで溶け込むなど、与えられた環境と機会を充分に活用することが望まれます。

その一方で、海外で研修活動や生活をするに当たって、言葉がうまく通じなかったり、慣習の違いに戸惑ったり、相談できる日本人が周りに殆どいなかったりすることも少なくありません。

よって、参加者には、自助努力・判断力・自主性と併せて、順応力・柔軟な思考力が強く求められます。

問題が生じたときに、IIP や研修先の窓口者をはじめ適宜に他人に相談することは必要ですが、自己に対して甘く安易に他人に頼ったり解決を委ねたりするかたには、IIP のプログラムは向かないとも言えるでしょう。

昨日の自分を超えることを目指して、定番型の海外留学や海外旅行・逗留では得られない、自分自身で今日と明日の過ごし方を試行し計画していく毎日： それを望む参加者に、そういう環境と機会を提供するのが、IIP 海外研修プログラムの主眼の１つです。

２．プログラムの仕組み

IIP は、その海外研修プログラムで、特定の受入側と提携した海外留学や海外旅行のようなパターン化した形で参加者を募集するというのではなく、参加者ごとに手作りの研修環境を用意します。

そのために IIP では、研修先の所在国や研修期間などに関する参加者の希望に意を払いながら、まず、参加者の受入れをしてくれる学校・団体・企業など研修先の候補の探索作業を開始します。

参加者と研修先候補のそれぞれの希望・条件を見比べながら、できる限り適合する相手を探し出すようにするこの作業は、容易に想像してもらえるように、多大な時間と手間を要するため、研修先の最終選定までに半年近く掛かることも少なくありません。

受入れ条件などを詰めたうえで IIP が最終選定した研修先は、言うなれば、参加者の身元引受者の役割を果たしてくれることになります。

「スクール・インターン」系プログラムにおいては、参加者はボランティアとして無給で活動することになりますが、それに対して学校側では、無償で研修環境を提供してくれます。

さらに、研修中の滞在先の選択についても、参加者が IIP を介して依頼すれば、状況が許す限り、学校側が学校関係者（教員や生徒保護者）の自宅その他でのホームステイや寮などを手配してくれます。

「ワーク＆カルチャー・インターン」系プログラムでも、参加者の研修活動は基本的に無給ですが、それと引換えに、参加者には無償で実務体験や技能習得の環境と機会が付与されることになります。滞在先は、原則として参加者自身の選定に任せられるため、アパート・寮など多様です。

◆◆◆◆◆◆

プログラムの「趣旨」と「仕組み」において、総じて、参加者にとって肝要なのは、何よりも IIP と研修先との委任関係・信頼関係を損なわないように行動することです。

研修環境は、参加者ごとにオーダー・メイドに近いものになりますが、それは参加者が自らの言動について恣意に基準を設定することを許しているわけではなく、特に、日々の研修活動と生活を円滑に進めるためには、IIP の規則・注意・指示・通知に従い、かつ、研修先・滞在先の規則・指示・要望に沿うことが常に参加者に求められるところです。